

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 4	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Associations of alcohol drinking and cigarette smoking with serum lipid levels in healthy middle-aged men. 健康な中年男性における血中脂質レベルごとのアルコールと喫煙の関連	
執筆者	
Wakabayashi I.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Alcohol. 2008 May-Jun;43(3):274-80.	
キーワード	
血中脂質、アルコール、喫煙	
要 旨	
<p>目的： 本研究の目的は、アルコールを飲むことによる血中脂質レベルへの影響が、喫煙者と非喫煙者で異なるかを検討することである。</p> <p>方法： 対象は 40-59 歳の健康な男性労働者 2 万 5689 人であった。血清総コレステロール、HDL コレステロールおよびトリグリセリド濃度は測定され、LDL コレステロール濃度は Friedewald 公式を用いることによって推定された。対象者は、タバコの平均的な一日の消費量(非喫煙者；少量喫煙者、1 日あたり 20 本未満；多量喫煙者、1 日あたり 20 本以上)と、平均的な一日のアルコール消費量(非飲酒者；1 日あたりのエタノール 30g 以下の少量飲酒者；エタノール 30g 以上の多量飲酒者)で、各々 3 つのグループに分割された。</p> <p>結果： 全体では、血清 HDL、LDL、および総コレステロールは、非喫煙者より多量喫煙者で有意に低く、トリグリセリドは多量喫煙者グループで有意に高かった。喫煙グループにおいては、血清総コレステロールは非飲酒者に比べ多量飲酒者の方が有意に低い一方、非喫煙グループでは総コレステロールの違いは非飲酒者と多量飲酒者の間に見られなかった。喫煙グループ、非喫煙グループの両方で、非飲酒者に比べ多量飲酒者の方が HDL コレステロールは高く、LDL コレステロールは低かった。非飲酒者と飲酒者の間の LDL コレステロールの相違は非喫煙者よりも喫煙者で顕著であった。これら関連は年齢、体重、およびアルコール摂取を調整しても変わらなかった。</p> <p>結論： 喫煙により飲酒のもつ LDL コレステロール低下作用を増加させること、喫煙が飲酒と HDL コレステロールの関連に影響しないことが、結果から示唆された。</p>	